

授業科目名	身体表現論	担当教員	児玉 北斗 岡元 ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第3クォーター		
講義内容	この授業の目的は、身体表現の多様性を認識するとともに、その表現性がどのようにして生じているのか／生じていないのかを知ることにあります。授業の内容は、講師の選んだ身体表現の分野やテーマをもとに、書物や写真、映像などを通じて、そのことを考えてゆくものです		
到達目標	授業で取り扱う身体表現の表現性が、どのような技芸や理念や仕組みによって生じているのかを、具体的に説明することができる		
授業計画	<p>2023年度は次のような身体表現の分野やテーマを用意しています</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンスにおける自由と不自由の二重性（児玉） ・「舞踏（Butoh）」の表現性と多様性（岡元） <p>1：イントロダクション パフォーマンスと動き（児玉・岡元） 2：日常におけるパフォーマンス（児玉） 3：儀礼とリミナリティ（児玉） 4：プレイ、ルール、ゲーム（児玉） 5：言語行為とパフォーマンス（児玉） 6：行動の復元（児玉） 7：権力と身体（岡元） 8：ハビトゥス、身体の習慣（岡元） 9：動きの合理性と非合理性（岡元） 10：他者に「なる」（岡元） 11：舞踏（Butoh）という現象（岡元） 12：まとめ、復習と授業内試験、質疑応答（岡元・児玉）</p>		
事前・事後学習	授業内で触れた考え方を基に、日常生活、芸術・観光との関連について考察を試みてリフレクション・シートに記入する（事前・事後学習として週2時間程度）		
テキスト	特に指定しません		
参考文献	Bruce Baird and Rosemary Candelario 編, The Routledge Companion to Butoh Performance (ラウトレッジ社, 2018年) ほか、適宜紹介します		

成績評価の基準	<p>平常点 40% : 毎回の授業中の様子や発言、およびリアクションペーパーの質をもとに判定 (担当者 20%ずつ)</p> <p>平常試験 60% : 授業内試験 (担当者 30%ずつ)</p>
履修上の注意 履修要件	「パフォーマンスアート概論」を履修していることが望ましい
実践的教育	該当しない。
備考欄	